

---

# 面白いってイエー！！～ドアマ作家の無謀な試み～

竹園

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

面白ってイエー！〜ドアマ作家の無謀な試み〜

### 【コード】

N0815L

### 【作者名】

竹園

### 【あらすじ】

自分の作品を中々褒めてもらえないアマチュア作家の心の叫びを代弁してみました。

自作の作品を一人にでも認めてもらうにはどうすりゃいいの？  
その方法をひたすら試してみるプチエッセイ風味の日常快進撃（？）  
です。

一応シリーズにしてみようと思って連載にしてみます。

## ドラマ作家の無謀な「些細な」試み（前書き）

初めに断っておきますが、「丁」とは作者の事とは限りません（笑）。関係ないですがご了承くださいませ。

## ドラマ作家の無謀な「些細な」試み

「…くっそ！またコメントなしかよー！」

一人の青年、Tがパソコン画面を前に、また嘆いている。

実はこの青年、とあるオンライン小説サイトで自作の小説を執筆中。サイト上での持ち作品は、最初に投稿した読み切り2作と、今執筆している初めての連載作品のみ。

連載を初めて以来、Tは毎日必ず1話はアップしていて、今日で4話目になる。

お世話になっている小説サイトはいわゆる「SNS」で、そのサイトに登録した者の作品がその場で一挙に読む事ができ、またサイト内で自作の小説を書き投稿する事が出来る。

中でも今Tが利用しているこの小説サイトは、かなりの大手で、毎日無数の作品が投稿されている。

だからそれなりに閲覧者も結構来てるって所だろう。

ちなみにTが今連載している小説の読者数は、連載当初から平均で30名程（もちろんサイト付属のアクセス解析データでの結果である）。

大手とはいえ、Tにとってはこれでも充分多い方だ。

実はTはこれ以前にもサイトを持ってたりもしたのだが、何をしても、結局2ケタも行った事はなかったのだ。

それが今回このSNSを利用したのがよかったのか、念願の2ケタ突破！

しかも、この2ケタ突破が連載以来ずっと続いている。

という事は、「読み続けて」くれている読者がこの中にもいるかもしれない。

…と、期待もしたのだが。

それはそれで、嬉しいのだが。

期待を向ける真のターゲット先である、「感想」や「評価」をまだ一つも貰えてない。

これはこれで、不安になる。

果たして自分の作品を面白いと思ってる人が、この世の中に存在するのか…。

今書いている小説は短編で、あと1話の投稿でクライマックスを迎える。

その最後の1話も、大方完成しつつある。

しかし、この状態のままでは、さすがに心が折れそうだ…。

そしてこの最後の話が出来上がってもどうせ感想なんか来ず、ますます凹んでしまっただろうな…。

” いやいや、作品自体はまだまだスタート地点だ、これからたくさん書いていく事でいつかは報われるさ！

てかまだこんだけしか書いてないんだから、今から早速めげないでくれよおおオレ…。”

Tの心はガラスのようにもろく、その上ネガティブで諦めがちなもんだから、ある意味救いようがない。

そうしていつしか、Tはアクセス数の喜びよりも、コメント皆無の状態に悩みきっていた。

おかげでやる気が出ない。これからどうすりゃいいんだ。

でも今のオレはバイトさえままならない状態なのに、このまま何も出来ないままだと、… 未来がない。

だから、はかない夢にすがりついて、何とかしたい。

少なくとも、コメントは欲しい…。

どうすれば…。

気付けば部屋の外、ベランダに出て外を眺めていた。

そして、先ほどの事や将来の事を止め処なく、ぼんやりと考えてい

た。

「面白いと言わせてやりてえーなー…。」

その時、どこからか犬の遠吠えが耳に入ってきた。はっとしてその先に目を向ける。

そこは近くのスーパーの屋上で、そこで飼い主に抱かれた犬が屋上の下に体を屈め、喚いていた。

その時、Tはあるアイデアが頭に浮かんだ。

Tはとっさに先ほど仕上げた連載小説のデータ（メモ帳ツール）を開いた。

それを一気に印刷し、印刷した紙を、突然外へ持ち込んだ。

そのまま、近くのスーパーの屋上へ駆け走る。

下を見渡せる柵の所まで寄ると、…Tは一瞬だけ不安をよぎらせ、そして意を決した。

途端、柵に空いた無数の隙間へ足をかけ、柵をその端までよじ登って行った。

そして、柵のてっぺんに片足を乗せるまでに登りつめると、それまで片手に持っていた小説の紙を…

一気にその向こうへ、バラ撒いた。

Tが書いた小説を載せたその紙は、バラバラに宙へ舞い、左右にゆっくりと揺れながら、ずっと下へ落ちていく。

その様子を目にしながら、Tは柵を下りて行った。

足元を再び屋上の床へ戻した頃、Tは視点を建物の下へ落ちていく紙へ向け、まだしばらくその様子を見続けた。

Tは、とにかく反応が欲しくてたまらなかった。

だから、この際大判振る舞いで、とにかく周りの皆に見せつけてやりたかった。

やがて地面に落ちていくその紙は、誰かの目に留まってくれただろう。

そしてその時拾い主は一体どんな顔をするのだろうか…。  
下手したらその拾い主は自分と同じ身分の作家か、もしくは関係者かもしれない、さすがにそれはここじゃ可能性はないが、でも、少なくとも誰かが呼んでくれる可能性は、ある。  
だから、この機に試してみる。

一体この後、どう出るか　　?!

…その時、強い風が吹いた。

それまでゆらゆらしながらも、おおよその位置は定めていた紙たちが、一気にそれに揺られる。

小説を載せた紙は、そのまま風に任せて、横へ、横へ、その向こうへ…。

やがて落ちる予定の位置とは全くかけ離れた所にまで、勢いよく、飛んで行った。

Tは多少予想外の展開に呆気にとられながらも、その先を見送っていた。

しかし…かなり遠いところまで飛んでいったのか、いつのまにか小説の紙はTの視界から消えてしまった。

「…?」

Tはしばし紙の行方を追おうと、きよるきよるして探す。

それでも結局、どこへ行ったかわからない。

Tは途方に暮れたように溜息ついて、一端その先を見つめた。

「…きっと誰かが見てくれるだろ。」  
そう呟いて、そのスーパールの屋上を後にした。



## ドラマ作家の無謀な「些細な」試み（後書き）

今回はまちまちになるかもしれませんが（予定は未定）。

あまり長くは続きませんので、長い目で見守ってやって下さいませ。  
こんな話作る作者ですので笑、よければ何か一言下さると大変喜び  
ます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0815/>

---

面白ってイエー！！～ドアマ作家の無謀な試み～

2010年10月13日21時43分発行